

# 文化情報

## 映画

### 『黒川の女たち』

テレビ朝日が2018年から取り上げてきた映像を基にしたドキュメンタリー映画『黒川の女たち』(松原文枝監督)が公開中だ。

1930~40年代に国策のもと実施された満蒙開拓によって、日本各地から中国・満州の地に渡った満蒙開拓団。日本の敗戦が濃厚になるなか1945年8月にソ連軍が満州に侵攻し、岐阜県から渡った黒川開拓団の人々はソ連軍に助けを求めた。その見返りは、数えて18歳以上の15人の女性たちによる「接待」だった。「接待」の意味すらわからないまま、女性たちは性の相手として差し出されたのだ。

帰国後、女性たちを待ち受けていたのは差別と偏見の目。心身ともに傷を負った彼女たちは沈黙を強いられ、事実を伏せられる。しかし戦争から約70年たった2013年、黒川の女性たちは加害の事実を公の場で語りはじめた。「なかったことにはできない」。女性たちの悔しさ、哀しみを受け止めた戦後生まれの遺族会の人々が動き出す。戦争が何をもたらすのか、犠牲の史実を封印させてはならない。

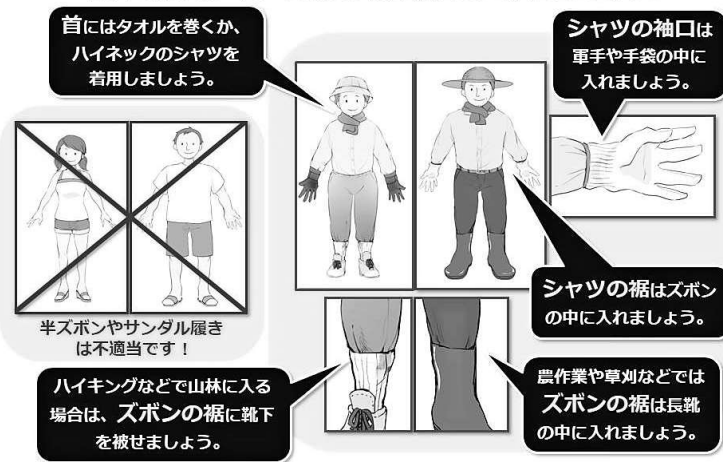
◆ユーロスペース他全国順次公開中



『黒川の女たち』 ©テレビ朝日

## マダニから身を守る服装

野外では、腕・足・首など、肌の露出を少なくしましょう!



出典：国立健康危機管理研究機構感染症情報提供サイトHPより

**重症熱性血小板減少症候群 (SFTS) とは**  
6日~2週間の潜伏期間を経て発熱やせき、おう吐や下痢などの症状が現れる。重症の場合は、血液中の血小板が減少して出血が止まらなくなり、意識障害を伴い、死亡することがある。国内での致死率は10~30%だが、治療は対症的な方法しかなく、有効な薬剤やワクチンはない。

**草むらにも注意**  
マダニは山や森林、草地に多く生息しているほか、民家の裏山や裏庭、畑、田んぼのあぜ道などにもいます。SFTSの感染がふえた原因に、マダニの山奥から里への移

動が指摘されています。その運び手はイノシシやシカなどの野生動物。人里に出没する野生動物の体からマダニが落ち、草むらに居つき、やがてネズミやラネコなどに感染し、さらに放し飼ひされるネコや散歩中のイヌにも広がっているのではないかと考えられています。つまり、マダニがいるのは森や深い山の中だけではなく、市街地の公園や草むらなど生息地域が広がってきているのです。

また、マダニにかまれるだけでなく、発症したネコやイヌから人間に感染するケースが報告されています。しかも、これまで感染が確認されていたのは九州から東海地方にかけてでしたが、東日本へと広がりがつつあります。

肌を露出を少なく  
マダニの多くは春から秋にかけて活動が活発になり、SFTS患者は5~8月に多く発症しています。

もし、かまれたら  
マダニ類の多くは、ヒトや動物にとりつき、皮膚にしっかりと口器を突き刺し、長時間(数日から、長いものは10日間以上)吸血しますが、刺されたことに気がつかない場合も多いと言われています。吸血中のマダニに気がついた際、無理に引き抜こうとするとマダニの一部が皮膚内に残って化膿したり、マダニの体液を逆流させるおそれがあるので、医療機関皮膚科)で処置をしてもらいます。

また、マダニにかまれたら、数週間程度は体調の変化に注意し、発熱等の症状が認められた場合は医療機関で診察を受けましょう。

# マダニの被害どう防ぐ？

マダニ媒介の感染症で亡くなる例が相次いで報告されています。どうすれば被害を防げるのか。感染したら、どんな症状なのか。対策はあるのでしょうか。

比較的新しいウイルス  
マダニが媒介する感染症「重症熱性血小板減少症候群(SFTS)」。いま、各地で患者が増えて

います。今年は7月までに全国から報告された患者数は24府県で91人と、これまでで最も多かったおとしの同時期を上回っていることが、国立健康危機管理研究機構のまとめでわかりました。

SFTSは、原因となるウイルスを持ったマダニにかまれることで感染し、発熱や消化器症状が

出で、重症化すると命に関わります。このウイルスは中国で2011年に初めて報告されて以来、東アジアや東南アジアで患者が確認されています。日本では2013年以降、西日本を中心に患者が確認され、年間100例以上となっています。マダニから感染する病気が、ほかにもツツガ虫病、ダニ媒介性脳炎、ライム病、日本紅斑熱などがあります。なぜ最近になってSFTSが増えているのでしょうか。

マダニの生態  
マダニはオス・メスともに、孵化してから死ぬまで動物の血液をエサとする。数カ月~数年は何も食べずに生きることができる、飢餓に強い虫。マダニの多くは、春から秋(3月~11月)にかけて活動が活発になる。

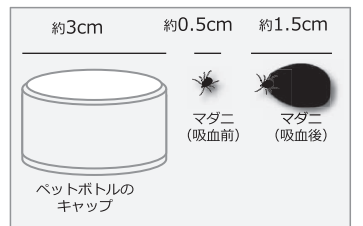
マダニの生態  
マダニはオス・メスともに、孵化してから死ぬまで動物の血液をエサとする。数カ月~数年は何も食べずに生きることができる、飢餓に強い虫。マダニの多くは、春から秋(3月~11月)にかけて活動が活発になる。

マダニの生態  
マダニはオス・メスともに、孵化してから死ぬまで動物の血液をエサとする。数カ月~数年は何も食べずに生きることができる、飢餓に強い虫。マダニの多くは、春から秋(3月~11月)にかけて活動が活発になる。

マダニの生態  
マダニはオス・メスともに、孵化してから死ぬまで動物の血液をエサとする。数カ月~数年は何も食べずに生きることができる、飢餓に強い虫。マダニの多くは、春から秋(3月~11月)にかけて活動が活発になる。

### マダニの生態

- マダニはオス・メスともに、孵化してから死ぬまで動物の血液をエサとする。数カ月~数年は何も食べずに生きることができる、飢餓に強い虫。マダニの多くは、春から秋(3月~11月)にかけて活動が活発になる。
- 体長は約3ミリ~1センチ(肉眼でも確認できる)
- 吸血後のメスは体長が3~4倍に肥大
- 吸血し終わると、自然と離れる



厚生労働省「ダニ媒介感染症」ダニ対策チラシより

### 入会申込書 \*入会金 100円

□新日本婦人の会に \*月会費 900円  
入会します (しんぶん代ふくむ)

お名前 \_\_\_\_\_

おところ \_\_\_\_\_

お電話 \_\_\_\_\_

ご記入いただいたら、お知り合いの会員かFAXで03-3814-9441まで

### 戦後・被爆80年

## 要求いっぱい、会員大募集!



平和、ジェンダー平等、  
女性の願いで行動する  
国連NGO  
あなたも一緒に

新日本婦人の会は、1962年10月19日、平塚らいてうやいわさきちひろなど32人のよびかけで創立され63年を迎えます。困ったとき、一人で悩まず、解決の糸口を見つけるために地域や職場に「班」があります。

入会はHPからも受け付けています。HPは二次元コードからチェック☆

